

## 2019 年度第 1 回町田市食育推進計画策定及び推進委員会 会議録要約

会議体の名称	町田市食育推進計画推進委員会	
事務局（担当課）	保健所 保健予防課	
開催日時	2019 年 7 月 25 日（木） 13:30～15:30	
開催場所	町田市保健所中町庁舎 講堂	
議題	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 開会</li> <li>2. 委員紹介（自己紹介）</li> <li>3. 委員長挨拶</li> <li>4. 報告事項             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第 1 次町田市食育推進計画の各課における食育推進事業の総括について <span style="float: right;">【資料 1】</span></li> </ol> </li> <li>5. 議事             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 第 2 次町田市食育推進計画に基づく取組について</li> <li>(2) 第 2 次町田市食育推進計画における進捗管理について <span style="float: right;">【資料 2】</span></li> </ol> </li> <li>6. その他             <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) まちだ食育フェスの開催報告について <span style="float: right;">【資料 3】</span></li> <li>(2) 2018 年度町田市食育ボランティア活動報告について <span style="float: right;">【資料 4】</span></li> <li>(3) 2019 年度食育ツーリズムの実施について <span style="float: right;">【資料 5】</span></li> <li>(4) 第 3 期町田市食育ボランティア養成について <span style="float: right;">【資料 6】</span></li> <li>(5) 町田市食育リーフレット第 10 号の発行について <span style="float: right;">【資料 7】</span></li> <li>(6) 第 3 弾「野菜料理レシピ集」の配布について <span style="float: right;">【資料 8】</span></li> </ol> </li> <li>7. 閉会</li> </ol>	
公開の可否	会議	公開
	会議録	公開

出席者	委員	饗場 直美	(学識経験者)
		音琴 三郎	(東京都町田市歯科医師会)
		千葉 勢子	(町田市法人立保育園協会)
		野末 直美	(町田市立公立小学校校長会)
		矢島 加都美	(町田市立公立中学校校長会)
		嶋田 敬子	(市内小学校栄養教諭)
		和地 雅美	(市内高等学校教諭 富田委員代理)
		新倉 敏和	(町田市農業協同組合)
		高木 鉄雄	(町田市農業協同組合・市内農業者)
		福田 猛夫	(東京都町田食品衛生協会)
		井出 和男	(町田集団給食研究会 森委員代理)
		村上 律子	(町田地域活動栄養士会)
		坂本 愛	(町田市観光コンベンション協会)
		末吉 泰子	(町田市公立小学校 PTA 連絡協議会)
柴床 幸子	(町田市立中学校 PTA 連合会)		
	事務局	保健予防課	
欠席者	委員	五十子 桂祐	(町田市医師会)
		小口 悦子	(市内大学教員)
		神藏 かおる	(町田市私立幼稚園協会)
		松井 大輔	(町田商工会議所)

配付資料	資料1	第1次町田市食育推進計画の各課における食育推進事業の総括	
	資料2	第2次町田市食育推進計画における進捗管理について	
	資料3	まちだ食育フェス開催報告	
	資料4	2018年度町田市食育ボランティア活動報告	
	資料5	2019年度食育ツーリズム 概要	
	資料6	町田市食育ボランティア(第3期)募集要項	
	資料7	町田市食育リーフレット第10号	
	資料8	第3弾「野菜料理レシピ集」の配布について	
		第3弾「これ1つで簡単 野菜料理レシピ集」	
		町田市食育推進計画策定及び推進委員会設置要綱	
	町田市食育推進計画推進委員会 2019年度委員名簿・席次表		
	第2次町田市食育推進計画(閲覧用)		

## 検 討 経 過

### 1. 開 会

### 2. 委員紹介

名簿順に自己紹介

### 3. 委員長 挨拶

### 4. 報告事項

#### (1) 第1次食育推進計画の各課における食育推進事業の総括について 【資料1】

事務局より資料1の説明を行い、質疑を求めた。

**委員：**視点3「共食・食文化」についての達成度と、具体的な事業は何か。

**事務局：**「共食・食文化」のそれぞれの事業において目標値を定めており、その事業でのB以上の評価の割合が100%になり、目標値を達成できた。

事業は、親子料理体験教室や、食育ボランティアの活動、食事マナーを教える等である。

**委員長：**実際のアンケートをとり、5年間いくつかの事業を滞りなく行われたという評価だが、実際は共食の割合が高くならなければいけない。2次計画では評価の方法を考えていくので、皆様のご協力をお願いしたい。

**委員：**視点2の2018年C評価とは。

**事務局：**この事業は保健所の生活衛生課が市民向けに「食のミミより情報」というリーフレットを発行しているが、発行部数が目標よりも減ってしまった。

**委員長：**視点5の取り組みが2件滞っている。1つは、給食施設指導の巡回件数が減った。施設からの問い合わせが減少して全体の指導数が減ったという事である。問い合わせが減ったことは良いこと、評価の方法を変えなければならない。2つ目の町田弁当は、対応できる会社が1社しかなくなってしまった。今後の見通しは？

**委員：**当初は5社あったが、注文数などで採算が取れない等、宅配をやめた。代替え業者が見つからず、現在はほとんどできていない。今後は、まちベジを使用したお弁当屋さんを紹介、町田産の野菜をPRしていく。

### 5. 議事

#### (1) 第2次町田市食育推進計画に基づく取組について

**事務局：**同封した「第2次町田市食育推進計画に基づく取組内容について」次の3つの観

点からご意見をいただきたい。

- ① 今年度、各職域で食育を推進するにあたって具体的な取り組みや今度の方向性、課題。
- ② 昨年度、委員より今後さらに食育を推進していくためには、同じ目標やテーマを決めた方が効果的ではないかという提案があった。効果的な考えであり、今後1つの目標やテーマを決めて取り組むとしたら、どのようなことができるのか、具体的な目標やテーマ案。
- ③ 各職域で食育を推進するにあたり、他機関や関係団体と連携したい、連携出来たらいいと思うこと。

**委員：**中学校は給食がないので毎日の取組はできないが、家庭科の新しい指導要領で「伝統食」と「だし」が復活したので、それについて取組を行いたい。保健所や指導課、食育ボランティアとの連携があると良い。取組は、朝ご飯を食べる習慣をつけるために、「朝ご飯プロジェクト」など朝食を30分以内で作るコンテストや地産地消で町田市の野菜を使用して作るなど、テーマを設けて行っていく。

**委員：**小学校では、歯磨き大会や、歯の健康ポスターに応募するなど、よく噛むことをテーマにしたい。共食については、給食の時間に楽しく食べることを心がけている。地産地消に関しては、地元野菜を使用した給食や、学校で農園活動も行っている。食品ロスに関しては、日々残さず食べることや、自分の体のために食べるという食べ方をする指導をしている。目標については健康と食生活や共食に関してキャッチフレーズがあるとよい。

**委員：**保育園では、バランスよく1日20品目という目標を立て、給食を行っている。食の安全については、食中毒や、アレルギー対応に配慮しながら行っている。共食に関しては、楽しく食事をする事、周りの人と一緒に食べる楽しさ、食べ物に感謝する気持ちを育む事を目標として食育計画を作成している。地産地消は、園児には難しいが、じゃがいもを地域の方と一緒に育てたりすることから地産地消につながっていく。食環境については、食品ロスに関して、残さず食べること、残飯はコンポストで肥料になることを教えている。テーマに関しては、朝ごはんを食べることや食事を一緒に楽しむということが大切だと思う。連携については、JAに野菜の作り方を指導してもらったり、食育ボランティアに活動をお願いしたい。

**委員：**歯科医師会は会員のところで、健康な歯のための定期健康診断を行っている。18歳から70歳は町田市の協力を得て健診事業を行っている。71歳以上は口腔機能を維持して食事をとることが大切だが、71歳での対応は遅いので年齢を引き下げて対応して欲しい。他にも妊娠期から食事をきちんととることを考えなければならない。これはライフコースという考え方で、小さいころからの環境が大人になってからの生活習慣病につながるというものであり、貧困との関係もある。ライフステージごとの問題の解決とライフコースとしての解決が必要と思われる。最後に食に関しては栄養士の力が必要と感じる。健康な歯を作るには栄養摂取が重要なので、そのためには栄養士と連携していきたい。

**委員：**中学校になると地産地消が身近に感じられなくなるので、年に1回くらいは地産地消をテーマにしたイベントがあるとよい。こういった食育のテーマやキャッチフレーズ、ポスターの募集などを、子どもたちを主体にした実行委員形式で行うのも良いのではないか。

**委員：**外食などで回りを見ると、食事のマナーなど親の教育の方が先ではないかと思われる場面も多く見受けられる。具体的なテーマをあげるのは難しいが、日常に起きていることがテーマにならないと取組につながらないと思う。

**委員：**情報発信については、まちベジを提供している店舗やイベントの情報をHP、ツイッター、チラシをコンベンション協会や駅、ホテルなどに設置して発信している。他には食育ツーリズムや収穫体験を行っている。意見として、保健所の食育フェスなどは、今までどおり秋のキラリ☆まちだ祭と一緒に開催した方が他のつながりで来てくれる人もいるのではないか。「食育」といわれると堅いイメージになってしまうが、同じ食育でも「体験」とすると人が集まるので、ある程度月間やウィークなど期間を設け、見せ方を工夫することで広がりが出てくるのではないか。

**委員：**地域活動栄養士会の目標は地域の方たちの健康増進に寄与するという事である。毎年、会としてのテーマを設けて活動しており、今年は「腸活」と「筋活」がテーマである。他の機関との連携については保健所との連携での講演会などで市民向けの活動を計画できたらと思う。

**委員：**施設では高齢者の誤嚥が多く、栄養士が支援している。食の安全ではHACCPを導入した。食の安全、調理技術の向上なども研究会として勉強会等を行っている。地産地消を考えて地域の食材を取り入れたいが、HACCPとの関係もありあまり進んでいない。

**委員：**調理師専門学校は、学生をプロの調理師に育て上げることが目的である。技術、心構え、衛生といった部分を重視している。農園見学も検討していたがまだ実現できていない。

**委員：**学校給食にはJAを通して食材を提供しているが、急な注文に対応できない場合もある。年間で計画して種や苗を植える時期から注文をしていただくとありがたい。まちベジマークはイベントなどでのぼり旗などを出しているが、まだ広まっていないので今後も努力していきたい。

**委員：**学校給食へ向けた地場野菜の提供は過去3年間で普及してきており、昨年の出荷量は50,780kgであった。地場野菜の割合は14.5%となっている。しかし、後継者不足という事も深刻な問題で、地産地消やっていくことは使命だが、作る人を確保することがとても難しくなっている。

**委員：**高校では食育の授業があっても実践に結び付いていないことが多い。市民アンケートの結果では、「町田市の高校生の朝食を食べる割合」が80.3%と出ているが、市内のある高校でのアンケートでは55%だった。さらに町田市のアンケートだと「全く食べていない」が6%だったが、実際は12%だった。学校により差があると思う。食べていない生徒の理由の中に、「朝ご飯がない・準備されていない」ということがあり、自分で準備するよう助言しても、「お金がない」との返答がある。「食事と貧困」という、家庭の事情も関わっていると感じられる。昼食も小学校までは給食があるが、中学校、高校生になるにつれ家庭の経済状況が反映し難しくなっている。地産地消に関しては、まちベジはスーパーにはなく、JAは近くない。PRの仕方考えた方が良いのではないかな。  
食育フェスは、市民としてはシバヒロでやるイベントは参加しやすい。

**委員：**小学校の給食の目標は、農業振興課やJAの協力により、まちベジの使用量を増やすことである。給食での使用量を増やしたいが、注文が重なると対応が難しいという事があり難しい。また、健康に配慮したレシピの提供では、保健給食課主体で、各校のレシピをクックパッドに掲載しており、各校でも献立表にレシピを載せている。食文化の継承については、朝の集会で給食委員に和食や食文化について調べたことを発表してもらったり、掲示物を作ってもらったりしている。全体のテーマについては、小学校としてはまちベジや地産地消が実施しやすい。実施時期については、毎月ではなく、例えば「食育クインズ」の誕生日を設定して、その日はまちベジの日や食育の日とすると取り組みやすい。また、子ども主体でキャッチフレーズを考えると、それに向けてみんなで取り組みやすくなるのではないかな。

**委員長：**意見をまとめると、大きな問題は「朝ご飯を食べないこと」「なんでも噛める口」というのは共通の項目である。町田の大きな特徴である「まちベジ」や「食育クインズ」というキャラクターを使いながら、まちベジをもっと普及させるにはもっと生産量をあげなければならないという農業上の課題も見つかっている。他の市町村では畑のオーナー制度がある。子どもたちと一緒に作り手伝える場所があるとコラボしやすいのではないかな。

## **(2) 第2次町田市食育推進計画における進捗管理について 【資料2】**

事務局より、資料2の進捗管理シートについて説明を行い、質疑を求めた。

**委員：**資料の中の健康づくり推進員はどういう方か。

**事務局：**健康づくり推進員とは、町内会に依頼して各町内会から推薦していただいた方。資格は持っていないが、健康づくりを地域で推進していくことをお願いしている方で250人弱いる。

**委員長：**進捗管理シートにより、この事業には連携できそうだと思う事業が増えてくるのではないかと。

**委員：**シートの事業例として記載があるオーラルフレイルについての説明があった。放置しておくと、食べることが十分できなくなり、野菜の摂取が減ったり、多品目食べられなくなることで低栄養になりやすいので、その前に対処することが大切だということである。

**委員長：**最終的なシートの形式は未定だが、皆様の事業等についてどのような取組がなされているか進捗状況を教えていただきたい。

## 6. その他

### (1) まちだ食育フェスの開催報告について 【資料3】

事務局より資料3について報告を行った。

### (2) 2018年度町田市食育ボランティア活動報告について 【資料4】

事務局より資料4について報告を行った。

### (3) 2019年度食育ツーリズムの実施について 【資料5】

事務局より資料5について説明を行った。

### (4) 第3期町田市食育ボランティア養成について 【資料6】

事務局より資料6について説明を行った。

### (5) 町田市食育リーフレット第10号の発行について 【資料7】

事務局より資料7の説明をおこなった。

### (6) 第3弾「野菜料理レシピ集」の配布について 【資料8】

事務局より資料8と配布したレシピ集の説明を行った。

**委員長：**以上、6件の報告であり、何か意見はないか。

**委員：**資料5の食育ツーリズムについて、今年はあまりブルーベリーができていないようであるが、南町田ブルーベリー園は大丈夫か。

**委員：**先週確認したところ、今年は例年の1/5位と聞いている。市内近郊でも同様との事だが、一般の方の入場をお断りしてとり置いてくれているようだ。野菜も同様で、その時にとれるものを収穫するという事になる。

**委員：**資料7に掲載されている男性料理教室は毎年開催されているのか。年に9回と書いてあるが、毎回何人位参加しているのか。

**事務局**：高齢者福祉課の事業で昨年の延参加者数は179名だった。

**事務局**：おそらく市でやっているのは人が集まってくるので、一緒に連携するのも良いのかもしれない。

**委員**：第2次町田食育推進計画の進捗管理シートに関してだが、小P連や中P連を代表してきているが、団体としてここに関わるような活動ができるのかということと、関わり方がわからない。

**事務局**：PTAで何か取組を行ったり、話し合ったりしたことがあったら書いてほしい。

**委員長**：PTA総会で食に関する話をしたということでもいい。PTAの動きが見えると学校や行政も連携しやすくなる。

**委員**：まちだすいとんの調理実習はどのくらいの時間がかかるのか。

**事務局**：依頼にもよる。野菜を切るところからすべてやるのか、すいとんをこねるところをやるのかでも違う。依頼者に応じて対応できる。

**委員長**：その他なければ、議事は以上で終了とする。

**事務局**：次回の食育推進計画推進委員会の開催については2020年2月頃を予定している。